

LGBT視点からみたSDGs

「No one left behind 誰一人取り残さない」というSDGsの理念を聞いたときに、私はまず疑問が湧き上がりました。そこにLGBTなどの性的マイノリティのことは含んでいるのだろうか、と。日本国憲法は、第十四条で「法の下での平等」を明記しています。それなのに、学校や職場で差別的言動は日常的にあり、同性パートナーと結婚することもできません。世界人権宣言には、第一条にこう書いてあります。「すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。」しかし、LGBTは世界で迫害され、死刑などで処罰される国も沢山あります。2019年に大阪で開催されたG20でも、同性愛が犯罪である国が

含まれていましたが、政府間の議題になりませんでした。様々な宣言から除外され続けてきた身として、疑いの目をむけてしまうのは止むを得ないことでしょう。

しかし、SDGsを実際に読んでみて、これは「使える」と感じました。SDGsは、一人ひとりがそうであって欲しい状態を描いているからです。国家間や国の法制度では守られていない私たちも、SDGsなら、すべての目標に、当然、含まれると読んで、尊厳と権利の獲得に向けて動くことができます。

例えば、日本のLGBTの社会的課題は、以下のように、SDGsの目標に沿って説明することができます。

1 貧困をなくそう



同性愛、両性愛の人は異性愛の人より、トランスジェンダーはそうでない人より、収入が低いと言われています。学校や職場から阻害され、就職活動でも差別されることが要因です。

5 ジェンダー平等を実現しよう

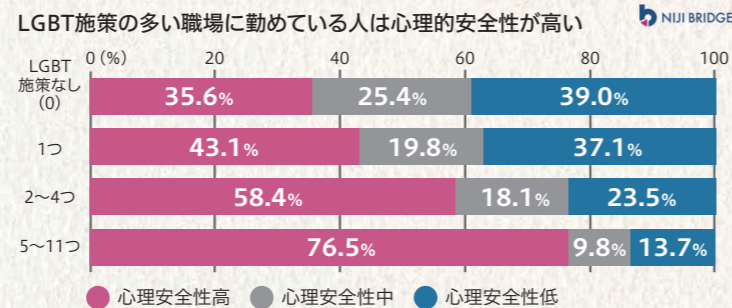


ジェンダー平等の意識が低い場合は、LGBTにも居心地が悪いものです。

8 働きがいも経済成長も



LGBTに関するハラスメントがあると、心理的安全性が低く、働きにくい職場になります。



10 人や国の不平等をなくそう



同性同士で結婚ができないのは不平等だと、現在、日本政府を相手にした訴訟が起きています。

16 平和と公正をすべての人に



LGBTであり、かつ、外国籍、発達障害、引きこもり、ホームレスなど、多重の困難を抱える人たちは、より困難な状況におかれがちです。行政や他分野のNPOとの連携が重要です。

目標を設定するには、確かなデータが必要です。しかし、日本はLGBTに関する公の統計がほぼありません。まずは課題の可視化から、ということで、私たちは「NIJI BRIDGE」というサイトを運営し、LGBTに関するデータと、一人ひとりができるアクションを紹介しています。是非チェックしてみてください！



<https://nijibridge.jp>



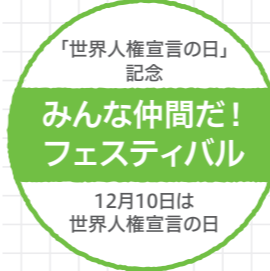
阪急阪神ホールディングスグループが推進する「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」で虹色ダイバーシティが車内ポスターに掲載されました。



代表
村木 真紀さん
認定NPO法人
虹色ダイバーシティ代表



社会保険労務士。日系大手製造業、外資系コンサルティング会社等を経て現職。LGBTQ当事者としての実感と、コンサルタントとしての経験を活かし、LGBTQに関する調査研究、社会教育活動を行う。



Withコロナ、どう生きる?

2020年12月13日 クレオ大阪中央開催

あふれる情報とのつきあい方

新型コロナウイルス感染症が急速に広まる中、テレビやネット、SNSなどでさまざまな情報が飛び交い、時には不確かな情報が混乱や不安を引き起こしたこともありました。あなたは、あふれる情報とうまくつきあえていますか？



竹村 登茂子さん
(元読売新聞編集委員、大阪芸術大学客員教授)

▶ 基調講演

「情報を吟味しよう～あふれる情報とのつきあい方～」

あなたは、応援するチームが勝った日のスポーツ欄を熱心に読みたくありませんか？

人は「自分に都合のいい情報」を選んで取り入れてしまいがちです。

あなたは、例えばトイレトイレットペーパーを買いに店に並びませんでしたか？

人は恐怖心をおられると、不確かな情報でも信じてしまう傾向があります。

情報には、悪意がなくてもデマやウソが混じっていることがあります。緊急時は不確かな情報をつい信じてしまい、そこから差別や偏見が生まれることも少なくありません。まちがった情報によって、困ったり苦しんだりする人がいるかもしれないという想像力、「その情報、まちがっているかもしれないよ」と言いあえる人間関係が、今こそ大切です。

▶ 学生の発表



「偏った思考に踊らされないために」

福永 紗弓さん
(追手門学院大学)

コロナ禍で人とのつながりが失われ、孤独や不安を感じ、その時は「どうしようもない」と思っていました。今となっては情報とのつきあい方をまちがったのではと思っています。情報に踊らされ、つい狭くなる視野や偏る思考を、柔軟に広げることが大切だと気がつきました。



「学びを止めない」

馬場 千里さん
(関西大学 高等部)

休校中、オンラインだけで授業が進むという初めての経験をしました。先生に質問しづらい、分からないことを調べても、どの情報を信用していいのかわからないなど、普段は感じる事のない不便もありましたが、「学びを止めない」という先生や仲間からの強い意志を感じました。



「カナダ留学で感じたこと」

中川 雄策さん
(関西大学 高等部)

昨年の夏からカナダに留学していました。2021年の夏までの予定を早めて帰国しました。つらい決断でしたが、カナダにおけるコロナの社会的影響や、カナダ政府の対応などを目の当たりにし、日本について客観的に考えることができました。

▶ テーブルトーク

講演後、5～6人のグループに分かれてテーブルトークを行いました。コロナ禍での暮らしの不安、差別の問題やボランティア体験談など、世代や立場を越えて、熱いトークがくりひろげられました。

世界人権宣言 12月10日は世界人権宣言の日

「すべての人が生まれながらにして、人として豊かに生きる権利を持っている」ことを表明した「世界人権宣言」は、1948年に国連総会によって採択されました。『みんな仲間だ！フェスティバル』は、身近な社会課題について語りあいながら、人権について考えるイベントです。「人権」と聞くと難しく「自分には関係ない」と思うかもしれませんが、「すべての人が、それぞれにとっての幸せな生き方ができる権利」のこと。もちろんあなたも持っていて、それは誰も奪うことのできない権利です。



最後に参加者全員で「世界人権宣言」全30条を朗読。それぞれの条文が心に響きました。

世界人権宣言 (条文訳: 谷川俊太郎、アムネスティ日本)

第1条 みんな仲間だ

わたしたちはみな、生まれながらにして自由です。ひとりひとりがかけがえのない人間であり、その値打ちも同じです。だからたがいによく考え、助けあわねばなりません。



日本では平均的な所得の半分以下で暮らしている家庭の子どもが、6人に1人もいます。これは先進国の中でも最悪のレベルです。(人権パスポート第22条より)